

2020 年度決算等に関するプレス資料

I. 2020 年度（2021 年 3 月期）決算概要

1. 損益の状況
2. 営業活動の状況
3. 健全性指標

II. 中期経営計画および 2021 年度業績予想

1. 中期経営計画
2. 2021 年度の業績予想

I. 2020年度(2021年3月期)決算概要

1. 損益の状況

○経常収益

売上高にあたる経常収益は、前期比 1.0%増加の 101 億 37 百万円となりました。

貸出金利回低下の影響を受け貸出金利息収入は微減となったものの、有価証券運用における投資信託の中途解約損益が改善したことにより有価証券利息配当金が増加した結果、経常収益は増加いたしました。

○経常費用

経常費用は、前期比 0.2%減少の 91 億 11 百万円となりました。

新型コロナウイルス感染症の影響により貸出金不良債権処理額は増加したものの、経費の減少や保有株式売却損益の改善などにより、経常費用は減少いたしました。

○経常利益、当期純利益

その結果、経常利益は前期比 13.9%増加の 10 億 25 百万円、当期純利益は 7.2%増加の 7 億 57 百万円となりました。

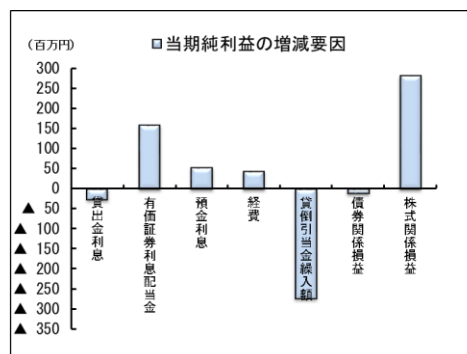
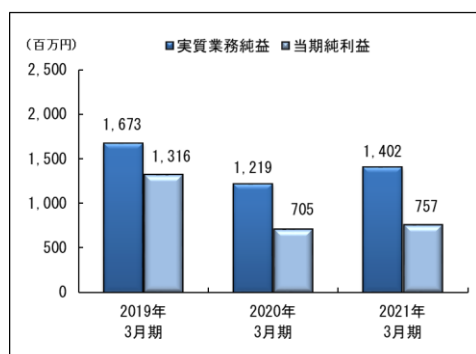
○実質業務純益、資金利益

本業の収益を示す実質業務純益は、有価証券利息配当金の増加や経費の減少などにより 15.0%増加の 14 億 2 百万円となりました。

また、資金利益は、2.2%増加の 81 億 86 百万円となりました。

(単位:百万円、%)

	2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期	前期比	増減率
実質業務純益	1,673	1,219	1,402	182	15.0
資金利益	8,434	8,003	8,186	183	2.2
貸出金利息	6,704	6,550	6,522	▲ 27	▲ 0.4
有価証券利息配当金	1,762	1,521	1,681	159	10.5
預金利息	321	339	286	▲ 52	▲ 15.4
役務取引等利益	130	108	99	▲ 8	▲ 8.0
その他業務利益	152	81	46	▲ 35	▲ 43.0
経費	7,044	6,973	6,930	▲ 43	▲ 0.6
貸倒引当金繰入額	95	104	378	274	262.5
経常収益	10,470	10,036	10,137	100	1.0
経常費用	8,850	9,136	9,111	▲ 24	▲ 0.2
経常利益	1,620	900	1,025	125	13.9
当期純利益	1,316	705	757	51	7.2

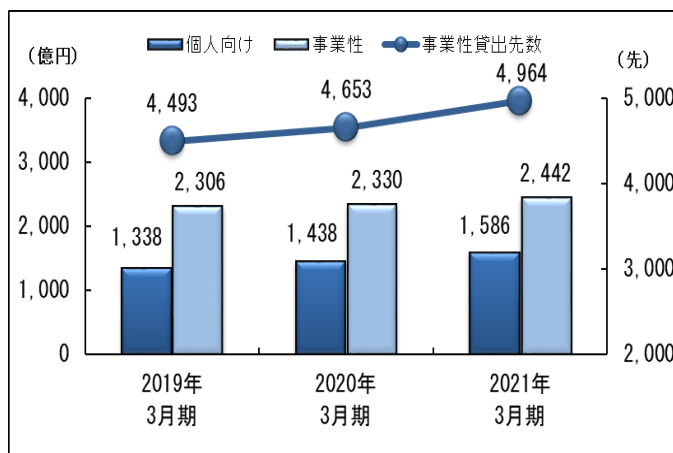
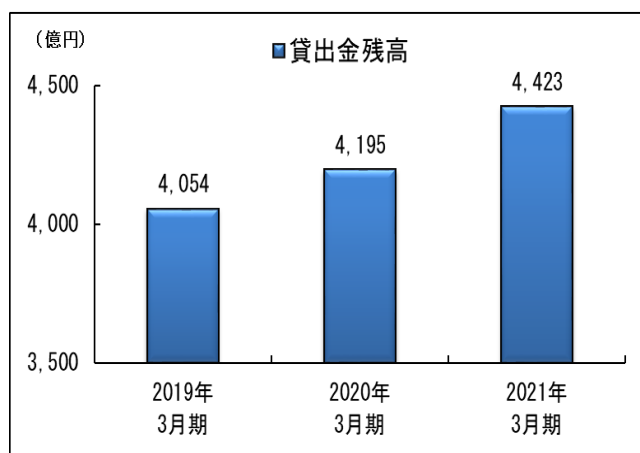


2. 営業活動の状況

○貸出金

貸出金は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている取引先へ伴走型の営業活動を通じた金融支援や、ローンセンターによる住宅ローンの推進、Web 完結型ローン商品の拡充等により、**期末残高は前期比 5.4%増加の 4,423 億円となり、8期連続で増加**しました。

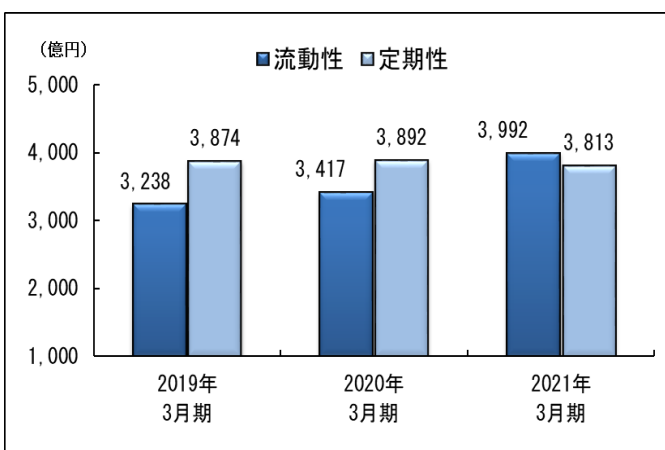
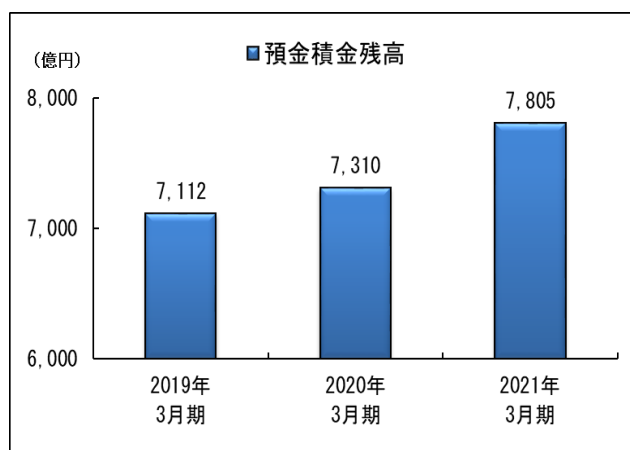
事業性の貸出先数は、継続的な新規開拓活動に加え、取引の有無に関わらず新型コロナウイルス感染症の影響を受けている方々に対しまして、円滑な資金供給に努めた結果、**6.6%増加の 4,964 先**となりました。



※ 事業性貸出先には、地公体、金融機関向け貸出を含んでいません。

○預金積金

預金積金は、給与・年金振込や口座振替、インターネットバンキング契約の推進に加え、「くれしん創立 95 周年特別金利定期預金」や「インターネット支店開設 3 周年記念定期預金」を発売するなど、積極的な営業活動に取り組んだ結果、**期末残高は前期比 6.7%増加の 7,805 億円と 4年連続の増加**となりました。

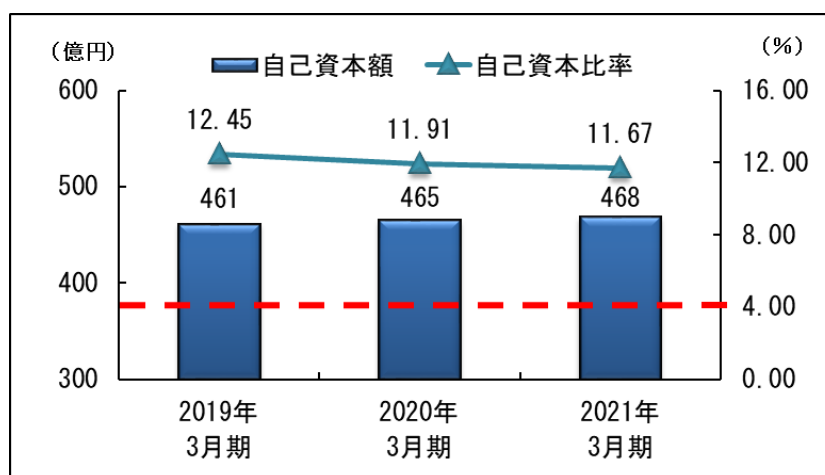


3. 健全性指標

○自己資本比率

自己資本額は前期比 0.7%増加した一方、リスク・アセット等が 2.7%増加したことにより、自己資本比率は 0.24 ポイント低下し 11.67%となりました。

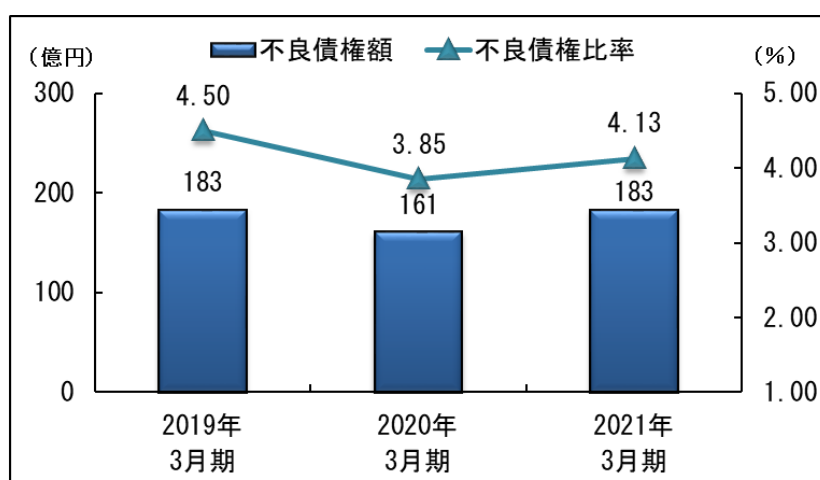
これは、国内業務のみを行う金融機関に必要とされる基準（4%）を大幅に上回っており、健全性に問題はありません。



○不良債権比率

新型コロナウイルス感染症の影響を受けている方々に対しまして、積極的な資金繰り支援を実施した結果、不良債権額は前期比 13.0%増加の 183 億円、不良債権比率は前期比 0.28 ポイント上昇の 4.13%となりました。

なお、これらの不良債権は、担保や貸倒引当金等で適切に保全を図っており、備えは万全です。



II. 中期経営計画および 2021 年度業績予想

1. 中期経営計画

- 計画名称

『100 周年、そしてその先へ』 ～地域の課題解決への挑戦～

- 計画期間

2021 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日



- 計画理念

- 顧客や地域の難局へ伴走して立ち向かい、活力ある地域社会を目指す
- 変革へ挑戦し、達成感を一層味わうことができる職場環境を目指す
- 100 周年、さらにその先も安定的に持続可能な金庫を目指す

- 重点テーマ

項目	概要
お客さまとの 接点強化	当地域の課題解決に向けた地方創生や経営基盤拡大、個人営業体制の効率化を進める。
経営管理態勢 の強化	持続可能なビジネスモデルの確立に向け、収益力強化や組織体制の変革を進める。
人材育成・人材活用 の充実化	地域の課題解決に向けた本業支援力の強化や多様な人材の活躍促進に取り組む。

- 計数計画

重点指標	2020 年度 実績	2023 年度 中計最終年度目標
経常収益	101 億円	100 億円
コア業務純益	14 億円	15 億円
当期純利益	7 億円	8 億円

2. 2021 年度(2022 年 3 月期)の業績予想

○経常収益

貸出金利息収入や有価証券利息配当金の増加などにより資金利益は増加を見込んでいるものの、償却債権取立益や株式等売却益などの臨時収益の減少により、経常収益は前期比 1.3%減少の 100 億 2 百万円を見込んでいます。

○経常費用

役務取引等費用の増加を見込んでいますが、引続き経費削減などを進めることにより、経常費用は前期比 0.1%減少の 90 億 96 百万円とほぼ横這いを見込んでいます。

○経常利益、当期純利益

その結果、経常利益は前期比 11.6%減少の 9 億 6 百万円、当期純利益は前期比 5.0%減少の 7 億 18 百万円を見込んでいます。

○実質業務純益

なお、本業の収益を示す実質業務純益は、前期比 3.2%増加の 14 億 48 百万円を見込んでいます。

○2021 年度経営計画

中期経営計画の初年度にあたる 2021 年度は、お客さまや地域の課題解決に向けた体制づくりのスタートアップ期と位置づけ、資産形成支援や本業支援など様々な取組みを通じて、地域金融機関としての役割を果たしていきたいと考えています。

その成果として、預金積金残高は 7,822 億円(5 期連続の増加)、貸出金残高は 4,510 億円(9 期連続の増加)を計画しています。

(単位:百万円、%)

	2021年 3月期	2022年 3月期	前年度比	増減率
実質業務純益	1,402	1,448	46	3.2
資金利益	8,186	8,313	126	1.5
貸出金利息	6,522	6,556	34	0.5
有価証券利息配当金	1,681	1,785	104	6.2
預金利息	286	262	▲ 24	▲ 8.5
役務取引等利益	99	2	▲ 97	▲ 97.9
貸倒引当金繰入額	378	430	51	13.7
経常収益	10,137	10,002	▲ 134	▲ 1.3
経常費用	9,111	9,096	▲ 15	▲ 0.1
経常利益	1,025	906	▲ 119	▲ 11.6
当期純利益	757	718	▲ 38	▲ 5.0

以 上